

学 校 名	津市立一身田中学校	校長名	川原田 元
児童・生徒数	429 名	学級数	18 学級
		教職員数	49 名

1 めざす学校像

学校教育目標「自ら生きる 共に生きる 豊かに生きる 生徒の育成」

～3つの良い(学べてよかった、通わせてよかった、勤められてよかった)の共鳴による学校づくり～

2 現状と課題

生徒は概ね落ち着いて授業に臨み、部活動や学校行事、生徒会活動にも積極的に取り組んでいる。授業では、互いに学び合う関係を大切にしながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組んでいる。また、「学校に行くことが楽しい」と回答する生徒の割合も高く、授業や学校行事等で仲間とともに取り組む良さを感じている生徒が多い。その一方、家庭環境が厳しい生徒、自己肯定感や自己効力感の低い生徒がおり、人の気持ちや心の痛みを考えられていないと感じる場面もあり、集団づくりや人権教育の推進が重要である。

生徒指導事案は少なくないが、迅速かつ適切な初期対応を行うなど組織的に対応する体制が整っている。また、それぞれ1割ほど在籍する不登校や不登校傾向の生徒及び外国につながる生徒などに象徴させるように生活背景が多様化しており、個々の状況に応じた柔軟な対応が必要である。教職員は、多忙な業務に追われながらも総勤務時間縮減を意識しつつ、生徒への細やかな指導・支援や教材研究、部活動指導等に意欲的に取り組んでいる。

3 重点目標

- (1) 一人一人の自立(自律)に向けた学習指導の充実。
- (2) 他者とのかかわりによって、安心感・達成感及び感性を育む教育の推進。
- (3) その機を逃さない適切な初期対応と組織的な対応による生徒指導の充実。
- (4) 生徒会活動やボランティア活動、部活動など自主活動の充実。
- (5) 教職員の総勤務時間縮減に向けた取り組みの強化。

4 具体的な行動計画

- (1) 一人一人の自立(自律)に向けた学習指導の充実
  - ・学習指導要領に則り主体的・対話的で深い学びを実現する(年3回以上授業公開)。
  - ・リアリティ、関連付け、考えたいなど意識し、生徒の主学態を重視した授業をつくる。
  - ・意味理解にこだわり、各単元を学ぶ基盤となる知識・技能の習得に注力する。
  - ・質の高い「学び合い」を通じて深い学びを追求する(対話の質の把握と適切な介入)。
  - ・デジタルとアナログを使い分ける。教員・生徒ともに生成AIを上手く活用する。
  - ・総合的な学習の時間では「探究」「必然性」「参画」「互恵性」に留意し、在り方生き方を追究する。
  - ・特別支援教育の内容を充実させ、自己効力感を育む。
  - ・「スタディサプリ」及び「みんなの学習クラブ」等の活用によって学習の個性化を進める環境を整えるとともに、教育相談も含めて家庭学習に対する指導を強化する。
- (2) 他者とのかかわりによって、安心感・達成感及び感性を育む教育の推進。
  - ・人権尊重を基盤に、学校生活のあらゆる場面で仲間づくりを進め、身近にある「いじめ」や「差別」を自分自身の課題と捉え、その解決のために行動できる生徒を育む。
  - ・日常の学校生活と学校行事を結び付け、教育効果を高める。
- (3) その機を逃さない適切な初期対応と組織的な対応による生徒指導の充実。
  - ・事例検討研修や発生事案の対処を共有することによって個人の対応力を強化する。
  - ・指導方針の協議、複数での家庭訪問、状況の共有など組織的な対応を徹底する。
- (4) 生徒会活動やボランティア活動など自主活動の充実
  - ・生徒会執行部による学校運営への参画を推進する(学校行事の企画、校則改正)。
  - ・「学校運営協議会」「サポーターいっちゅう」と連携し、地域づくりへ参画し、地域貢献への意識を育む。
- (5) 教職員の総勤務時間縮減に向けた取り組みの強化(業務の内訳に基づいた縮減策)
  - ・授業改善、仲間づくり、生徒指導体制の充実の連動による問題行動の削減と早期解決。
  - ・会議、研修、学期末及び定期テスト時の弾力的な時間割やNO部活による時間捻出。
  - ・採点支援システム、出欠席管理アプリ等の活用。(最終下校時間の15分短縮)
  - ・適正な部活運営(完全複数顧問体制、部活動指針に則った休養日確保等)と時間短縮。
  - ・職員会議や研修会等の会議時間の短縮(60分以内に終了する会議の割合80%以上)。